

歴博 ぐらしの植物苑だより

第10回『日本の植物文化を語る』10月28日(土) 13:30~15:30 本館講堂

「栗の文化・漆の文化—アジアの中の縄文文化—」 山田昌久 (首都大学東京)

第94回『ぐらしの植物苑観察会』11月25日(土) 13:30~ ぐらしの植物苑

「針葉樹のはなし」 斎木健一 (千葉県立中央博物館)

ぐらしの植物苑今週のみどころ <http://www.rekihaku.ac.jp>

伝統の古典菊

10月24日(火)~11月26日(日)



1999年以降収集した品種に、今年は江戸菊の品種を増やし、嵯峨菊 10, 伊勢菊 10, 肥後菊 32, 江戸菊

34, 奥州菊 9, 玉菊 2, 厚物 2, 丁子菊 (ちょうじぎく) 白竜丸(丁子菊)

7の106品種を東屋周辺, よしず展示場, 畑奥温室に展示いたします。

苑内には、今咲いているキク科として、ヨメナ、ノコンギク、コンギク、フジバカマ、アシズリギク、ユウゼンギク、などがあります。苑内にあるシュウメイギクは菊の花によく似ていますが、キンポウゲ科イチリンソウ属でアネモネなどと同じ仲間です。

菊は花の大きさにより、

大菊：18cm以上 厚物咲き…舌状花が盛り上がる
管物咲き…舌状花が管状になる、太管、間管、細管、針管
大掴み(おおつかみ)咲き…太管の舌状花が強く狂う(奥州菊)
一文字咲き…一重

一文字咲きの二重 (美濃菊)

中菊：9cm以上 一重 花形の端正な肥後菊
中心の筒状花が大形になった(丁子菊)

八重, 千重

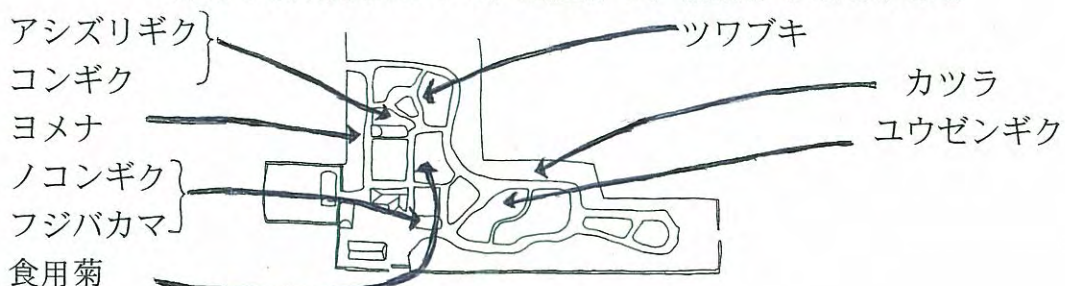
細い花が上方に簪(ほうき)状に咲く嵯峨菊

細い花が下の垂れ下がる伊勢菊

花が狂い咲きをする江戸菊

小菊：9cm未満 一重, 八重, 千重, 丁子咲き, ポンポン咲き

特殊な栽培方法として、懸崖作り、盆栽作りなどがある



①ノコンギク (キク科シオン属)

山野に多くみられる多年草で、地下茎が横にはって、よく増えます。葉はざらつきがあり、頭花の舌状花は一列で淡青紫色。瘦果には長さ4～6mmの冠毛があります。よく似ているヨメナには葉にざらつきが無いこと、瘦果にはほとんど冠毛が無いことから区別できます。



②コンギク (キク科シオン属)

ノコンギクの中から、色の濃いものを選抜したもので、古くから栽培されています。舌状花は一列で青紫から紅紫色。ノコンギクより花数が多く、葉のきょ歯の深いものが多い。



③ユウゼンギク (キク科シオン属)

北アメリカ原産の多年草。苑にあるものは、背丈はわい性で低いが、高性種もあります。園芸品種の総称なので、ユウゼンギクと呼ばれものはたくさんあります。日あたりのよいところなら場所を選ばなく、またキクと同じようにさし芽で増やすことができます。



④食用ギク (キク科キク属)

食用ギクで東北地方では、花を蒸して乾燥・板状にして菊のりにして保存します。酢のものや汁に入れて食べます。苑内には、阿房宮、モッテノホカの2品種が栽培されています。写真は阿房宮です。



⑤ツワブキ (キク科ツワブキ属)

東アジアの特産属で福島一石川県以南の海岸に生育します。花は頭花で中央部の両性の筒状花と、周辺部の雌性の舌状花とからなります。古くから園芸品種がつくられ、葉が斑入りのもの、縮れのもの、花全体が舌状花のものなどがあります。若い葉を食に、あぶった葉を膿だしに用いました。



⑥カツラ (カツラ科カツラ属)

カツラ属は比較的原始的広葉樹で、日本に準固有のもので、雌雄異株です。温帯の渓谷を構成する種で、木もまっすぐに伸び、秋の紅葉も美しい。葉には香りがあり、特に紅葉している今はケーキを焼いているような甘い香りがします。苑内と歴博の食堂横にあります。

